



本当に久しぶりに銀座へ行った。山手線から歩いていけぬと思
っていて、秋葉原から乗ったら一駅抜かして走り抜けて東京駅まで行
ってしまった。あわててホームからホームへ降りたり上ったりして一
駅もどって外へ出たらそこは銀座はなく、駅前で呆然と考へたら神
田だった。仕方なくまた電車に乗って先ほどもどってきた東京駅をま
た越して行き、有楽町で降りる。銀座なんて縁のないから行き方も忘
れてしまった。困ったことだとぶつぶつ言いながら、友人の建築士と
待ち合わせの、三越のライオンに向かって松屋の前を歩いていたら加
藤さんの名前が見えた。水墨画の展覧会で今日が最終日だといふ。こ

れは行かぬばならんと、友人と会ってから一緒にまた引き返して上がっていったら、加藤さんはお元気で「お
ひさしぶり。」とイスに座ったままでしたが、いい笑顔でした。加藤さんは世界各地の景観を紙の上に表
し続けて88歳になります。そこから書くことに何をみだしたのだろうかとお聞きしたかった。表見し続け
ていることに対して今、何を思っているのか、その辺を一度ゆっくりお聞きしたいものだと思ひなが
ら一枚一枚見せていただきましたが取り巻く方々の笑顔の中で幸せそうな様子はいよいよ地味なものでした。

さてそこからどこに行くのかと思ったら千木良さんの展覧会で、本日初日だといふのを探して歩く。よう
やく見つけて入るとあの声が響いているのですぐにこののはわかった。こっちは相変わらずエネルギー
ッシュな種かお顔の輝きにあふれている。あんな元気な顔を見ていたら疲れるなと呆然としていたら、う
しろから声をかけられて、振り向いたら千住のしさんがここにこして、「さっき遠くから高村さんだ
と思って見ながら歩いてきました。」と笑っている。こう知っている人がうろろしているんじゃないや銀座じゃ
立ちションベンもできないなとうろたえながら、友人とライオンのビアホールに逃げ込む。

この空気は年月はたっても何も変わらない。本当はピレゼンのビアホールの方が、並んたき樽を目の前に
してソーセージを焼くのを見ながら、キャベツの酢漬なんかで樽生のピレゼンビールなんか飲めて好きな
んだが、本日は次の展覧会場へのルート上にあるライオンに流れてしまった。高く広がった壮大な茶緑色の
アーチやタイルは重厚で良いと言う人が多いが壮麗すぎて私は今ひとつなじめないし、足が地に着いてな
いような気もして、ついでにちょいと高くて不満が、ビールが飲めればそれでいいのだ。

ライオンを出て、今度前から聞いていた友人の知人の大分近代的な水墨画の展覧会を見に行く。たし
かに水墨画ではあるが、細密であり、造形的であり、グラフィックデザインともいえないようなもので、海
外で人気があるのは理解できる。お客さんの反応も猫の細密な絵に「かわいいー！」などと、絵という心
の表見に対する共感や羨望とは異なった反応が顕著だ。そういう見方のお客さんが着いているので、これは
これでいいのかなと思う。

さて帰る高が、行くべきところに行かぬばならんと、建築家とよろよろとガード下方面に近づいてい
き、さまよったあざく酒を飲みなおして本日の業務は終了した。その日は秋葉原のニッピンに寄って、壊れ
た靴の代わりを買って帰宅。翌朝、立川に七時半について建築士に電話をしたら、「もう、日原だよ。」など
といふ。氷川と言ったかったらしとやっとなづき、仕方がないから今から奥多摩駅に行くから御前山でも
登ろうということになる。昨日は立川9時集合と言ったのだが、どっちもいよいよ加減なのだ。山は走っている
人ばかりで道端で酒を飲んでいるのは二人くらいと言うちょっと健康的過ぎる山であった。夕方奥多摩駅近
くの小さな飲み屋で一杯。「東京ウォーカー」に出たと喜ぶママさんや、地元の地誌の研究科のおっちゃん
と飲みながら夜は更けていく。なんとなく一かげんな月であったと思ひながら今月は過ぎていきます。

<http://www.interq.or.jp/japan/gnomes/gnomes1>

TEL/FAX 03 5600 0195 高村 哲 GnomesJpn@aol.com